

CNA Report

News & Analysis Focusing On Audio/Video/Data Collaborative Conferencing Market

Independent & Unbiased Perspective Since December, 1999

電話会議・テレビ会議・データ会議(Web 会議)専門ニュースレター

Vol 5. No. 11 2003 年 6 月 15 日号 毎月 15 日・月末発行 創刊 1999 年 12 月 8 日

発行人/編集人: 橋本啓介 (Keisuke Hashimoto) kay@hkeis.jp Copyright 2003 ケイ・オフィス All rights reserved.

ニュースダイジェスト

■VCON 社、ボックスタイプのコーデック「HD100」をリリース



イスラエルの VCON 社は、イクエイター社の DSP である、Equator BSP-15 マルチメディアプロセッサを搭載した、「HD100」を発表した。「HD100」は、API が用意されているため、インテグレータ向けに、カスタマイズが容易に行える。

「HD100」は、QoS やリモートマネージメントエージェントに対応したパケットアシスト・アーキテクチャーを含み、MXM(メディアエクステンジマネージャー)との統合も容易に行える。H.263++や、60 フィールド/秒において、4CIF あるいは、インターレース CIF 規格に対応。次世代コーデックである H.264 をもサポートする。

また、「HD100」は、MCU 機能も内蔵している。

■ラティテュード社、「MeetingPlace 最新バージョン 4.0」日本語版を発表

音声 & ウェブ会議ソリューションを提供する米ラティテュード社は、「MeetingPlace 最新バージョン 4.0」の日本語版を発表した。同システムは、グローバル企業を中心に世界

中で 400 社、800 システム以上の導入実績を持つ。米ラティテュード社は、「MeetingPlace」は、利用者が使い慣れた自分の電話と PC を通じて誰もが自由に会議の予約・参加ができ、特別な運営管理や導入時のトレーニングなども必要とせず、企業の既存のインフラリソースを活用しながら導入が行えるという。

会議中は、電話による音声のやりとりだけでなく、PC 上で各種ドキュメントを共有し書き込み機能などがついている。今回の最新バージョンでは、参加者表示機能、会議の録画・録音機能などが追加されている。日本では、丸紅テレコムが販売代理店となっている。日本では日立製作所などが利用している。

■タンバーク社、CMO(最高マーケティング責任者)を新たに任命

ノルウエーのタンバーク社は、新たに CMO(最高マーケティング責任者)の役職を設置し、アスペンテクノロジー社でマーケティング担当副社長を務めていたトニー・リー・ルドニッキー氏を任命した。

タンバークは、マーケティング機能及び同社のブランディング戦略の強化を図ると思われるが、同分野で実績のある同氏を向かい入れた。同氏は、アスペンテクノロジー社以前は、デジタル・イクイップメント社やジェネラルエレクトリック社の宇宙事業部門でのマーケティングを指揮してきた。

■ラドビジョン社、テキサス・インスツルメンツ社の DSP 採用

イスラエルのラドビジョン社は、同社の提供する MCUv3 に、テキサス・インスツルメンツ社の DSP を採用した。DSP は、TI TMS320C6203。MCUv3 に 12 個搭載され、プロセッサの演算能力を示す指数は 28.8GIPS で、IP、ISDN、SIP

と3Gのテレビ会議を同時に100のポート/ユーザーを処理する能力を持つ。

この新しいプロセッサを利用することにより、帯域の最適化、ユーザーセッティングに最適化されたストリーミングの配信、H.261からH.263へのトランスコーディング、また最近承認されたH.264にも対応する。

■WIT社、スターバック社とタイ国内での販売提携

タイのワールド・インフォメーション・テクノロジー社(WIT)は、H.323ベースのテレビ会議をさまざまなフォーマットでストリーミング変換を行うことができるソリューションを提供する米スターバック社と販売提携を行った。WIT社はタイで15年間ネットワーク関連のシステムインテグレータービジネスを行ってきた企業。

■FVC社、本社移転

米FVC社(ファーストバーチャルコミュニケーションズ社)は、本社をカリフォルニア州サンタクララから同州レッドウッドシティーへ移転した。テナント料の削減を行いながらも、デモの環境やサービス提供、製品の出荷などにおいて非常によい環境になったと同社のCEOがコメントしている。

■ウェベックス社、インドでの同社のウェブ会議サービスを開始

ウェブ会議サービスを提供する米ウェベックス・コミュニケーションズ社は、インドにおいてウェブ会議サービスの開始を発表した。

■アエスラ社、北米市場向けのテレビ会議システム新製品を投入

イタリアのアエスラ社は、北米市場向けに、セットトップテレビ会議タイプの「Vega Star Gold」ラック搭載型のコーデック「AVCO8400」、中国のTZT社と開発した公衆テレビ電話(CNAレポート VOL.5 NO.1、2003年1月15日号参照)「PayPhone」を投入する。

「Vega Star Gold」は、H.323とH.320に対応し、内蔵MCUで7拠点ネットワーク混在接続(IP+ISDN)が可能。多地点接続では多画面分割モードをサポート。音声・ビデオデータの暗号化もオプションで対応。

「AVCO8400」は、ラック搭載型コーデック。MCU内蔵で7拠点のネットワーク混在多地点接続が可能。ダイヤルアウト、ダイヤルイン機能、多画面分割機能もサポートしている。

公衆テレビ電話「PayPhone」は、H.320とH.323両方に対応している。H.320かH.323を選ぶボタンがついている。いずれかを押し、電話番号かIPアドレスを入力すると通信ができる。

<広告> NAT/ファイヤーウォールのソリューション

IP freedom™

トーマンサイバービジネス株式会社
<http://www.tomen-g.co.jp>



<広告>

イスラエル VCON のテレビ会議製品情報(日本語): 日本地方自治体等導入実績あり、PCタイプのテレビ会議システム

からセットトップタイプのものから MXM メディアエクステンジサーバー、開発ツールキットなど幅広いニーズに対応。テレビ会議メーカー、大手5社に入る。

[詳細上 VCON イメージをクリック!](#)

<広告>



イタリア・アエスラ社テレビ会議(左 VEGA PRO, 右 SUPERNOVA)テレビ会議エントリーレベルからハイエンド、またアフガニスタンでの取材で活用された実績のあるスーツケース形ポータブルテレビ電話や音声会議端末など幅広く取り扱っています。ヨーロッパの宇宙関連機関であるESAでも導入され、過去10年で60カ国に11万台テレビ会議を販売している実績があります。VEGA PROは2000USDからのエントリーモデル。

[詳細は、写真をクリック](#)

セミナーレビュー

IP テレビ会議最新技術動向と利用事例勉強会

～テレビ会議、音声会議、ウェブ会議に関する、技術及び市場動向、事例紹介などの最新情報～

TeleSpan・VTV ジャパンセミナー2003



昨年の TeleSpan セミナー

今年も一昨年昨年とおこなってきましたテレビ会議、電話会議、ウェブ会議のセミナーを7月2日(水) 青山TEPIA (TEPIAホール/展示ホールC)で開催 します。今年は、VTV ジャパン株式会社と共同で開催いたします。

セミナーセッションは、特別講演としてITU-Tの国際標準化でご活躍されている早稲田大学客員教授の大久保榮先生にH. 323の動向について、また東京工学院経営情報学科科長中央大学法学部兼任講師 中澤達彦先生には、遠隔教育の実際の現場での取り組みについてお話していただく予定です。

また、市場動向や技術動向、利用事例、導入のポイント、各社の利用事例等の発表、国内外との IP テレビ会議のデモなどのセッションも予定されています。

今年は、セミナー参加と展示参加でわけまして、展示だけ参加するということもできるようにしました。セミナーセッションは、一昨年とかわりなく 5000 円(配布資料、昼食、ドリンク)ですが、展示だけの参加でしたら無料です。

展示内容、セッションの内容についての詳細は、<http://www.hkeis.jp/tvj/> にあります。

【出展企業】13社

- アエストラ
- TANDBERG
- トーメンサイバービジネス
- 日本テレコム
- 日本電気エンジニアリング
- VCON/ログイット
- プレミア コンファレンシング
- ポリコム
- ラドビジョン
- コンピュネティクス/NTT-ME
- STARBAK/日商エレクトロニクス

- 日本FAシステム
- 丸紅テレコム

【展示内容】

- テレビ会議端末
- 音声会議端末
- 音声・Web 会議サーバー
- PCテレビ会議
- 運用管理ソリューション
- 多地点接続装置(音声会議・テレビ会議)
- 多地点接続サービス(音声会議・テレビ会議・ウェブ会議)
- ゲートキーパー
- ゲートウェイ
- ストリーミング
- 帯域制御管理 等

主催:

米 TeleSpan Publishing Corporation, VTV ジャパン株式会社

後援: ビジュアルコミュニケーション推進協議会

協賛: インターナップジャパン株式会社、

株式会社ドリーム・トレイン・インターネット

業界インタビュー 第4回目

VCON

VISUAL COMMUNICATIONS

ジョセフ ダニエル氏 (Joseph Daniel)

VCON Ltd. (<http://www.vcon.com>)

インターナショナルセールス&マーケティング担当副社長

(聞き手: CNA リポート編集長 橋本啓介)

橋本: CNAリポートの読者に、まずは御社の自己紹介をしてください。

ダニエル氏: 弊社VCON社は、人々の間に物理的に存在する距離を橋渡しするビジュアルコミュニケーションソリューションに関連した製品を開発製造する会社です。

私どもの数々の賞を受賞している製品を裏打ちする技術は、企業のIPもしくはISDNネットワーク環境で最高の音声、ビデオのパフォーマンスを提供します。VCONが提供するミーティング・コラボレーションソリューションは、デスクトップとグループタイプのテレビ会議システムだけではなく、ビデ

オ会議ネットワークの運営や管理、課金システム機能を持ったIPビデオPBXなども含まれます。

VCONの製品は、世界中の提携販売会社を通して、またOEM供給によって販売されています。本社は、イスラエルにあり、支社は世界6つの大陸にあります。パリ証券取引所(Sicvam No.022021)に上場しています。

橋本:テレビ会議市場をどのように御社として捉えていますか？

ダニエル氏:テレビ会議市場は、現在移行期にあると見ています。ひとつには、国や地域によってその状況や速さというのはさまざまですが、市場自体がISDNベースの回線交換ネットワークにフォーカスしたのからからIPと呼ばれるパケット交換のネットワークへシフトしているということです。

二つ目は、テレビ会議業界がビジュアルコミュニケーションという枠組みを超えて、リッチメディア・コンファレンシング&コラボレーションという、音声からテレビ会議、データ会議、インスタントメッセージングなどが統合された世界に、移行しつつあると現状です。

リッチメディアの世界では、さまざまなコミュニケーションの形がシームレスに統合化され、その場のニーズに最適化されたコミュニケーションの形態を自動的に選べ、選択の幅が広がります。

リッチメディアとは、音声会議、ビデオ会議、テキストメッセージング、データコラボレーションをひとつの統合されたソリューションという形で提供するものですが、VCONなどのいくつかのテレビ会議メーカーは、早くからこのトレンドに着目していました。

橋本:具体的にはどのような製品、ソリューションを提供しているのでしょうか？また、それらの特長や利点、他社と比べての強みなどを教えてください。

ダニエル氏:VCONは、ビジュアルコミュニケーションやリッチメディアのソリューションをクライアント/サーバーアーキテクチャーをベースに提供しています。

具体的に言いますと、クライアント側から見ると、VCONは、デスクトップ向けや会議室向けのテレビ会議端末を提

供しているということ。また、一方でサーバー側から見ると、VCONは、ストリーミング、多地点接続会議、インスタントメッセージング、ウェブベースデータ会議、テレビ会議ネットワーク管理を提供しているということです。

VCONの強みのひとつは、弊社の提供するソリューションが、これら全てのコンポーネントがシームレスに統合されているということ、それにより、リッチメディア・コンファレンシングやコラボレーションを高度に統合化された環境で活用できるということです。

また、二つ目は、IPネットワークや技術に関するさまざまなノウハウや経験です。弊社は、いままで業界のイノベーター(革新者)と呼ばれ続けました。弊社が強みとするこのイノベーションの重要となる分野がIPベースの会議ソリューションになります。



ViGo

橋本:アジア太平洋地区でのビジネス戦略について教えてください。

ダニエル氏:VCONの製品は企業向けが主ではありますが、中小企業やSOHO、

またはコンシューマー市場も視野に入れています。これらの潜在的なユーザーを獲得するために、VCONは、流通業者や販売代理店を活用したセールス・チャネル・ネットワークを持っています。

これらの販売代理店は、さまざまな分野に渡っていて、会議室ソリューションを提供する音響機器インテグレーターであったり、法人企業へのIP、ISDN、VSATなどのネットワークソリューションを提供するネットワーク付加価値再販業者であったりします。また最近では、ブロードバンドネットワークでテレビ会議サービスを提供するサービスプロバイダー系も今後のパートナーとして検討しています。

橋本: 御社のアジア太平洋地区の全世界市場での位置づけはどうか？ 収益の何パーセント程度でしょうか？

ダニエル氏: VCONの世界市場全体での売上げのうち、アジア太平洋地区の割合は25%—30%を占めています。業界全体の市場割合と結構同じかと考えます。

橋本: 日本でのパートナー企業を紹介してください？

ダニエル氏: 日本国内では、日本システムウエア株式会社が主なパートナーですが、NTTグループ系の株式会社NTT-ME、帝人製機グループのログイット株式会社も重要な日本でのパートナーです。



Falcon

橋本: 日本でのビジネス展開は現在どのような状況でしょうか？

ダニエル氏: VCONは、日本でここ5年ほどビジネスを行っており、特に、パーソナルソリューションである、「Cruiser」、 「Escort (PCIカード)、そして「ViGO (USBタイプ)」などが特によく知られています。

今後は、「VCB1000」、「VCON IP MCU」や、IP向けのソリューションにフォーカスしたビジネス展開を考えております。

VCONの強みのうちのひとつは、顧客ユーザーのニーズに合わせた、カスタムメイドなソリューションを提供することができるということです。このカスタムメイドなソリューション

を提供できるというのは、VCONならではのものです。

日本における過去1年ほどのADSLユーザーの拡大を鑑みると、VCONが提供するビジュアルコミュニケーションのソリューションが非常に重要になってくると見えています。

また、弊社のVCBやFW NAT&PATサーバー (P2Pソリューション)などの先進的な技術に裏付けられた製品を市場に投入していきながら、弊社の日本でのマーケットシェアの拡大を図っていきます。

VCONの最新の技術の結晶でもあるコーデック「HD100 (高解像度の意味)」—次世代のEquator BSP-15マルチメディアプロセッサをベースとした、8年間の技術の蓄積—が、MCUを内蔵し、非常にクオリティの高いビデオ映像や音声を提供します。

「HD100」の詳細は、

<http://www.vcon.com/products/group/HD100/>

橋本: 日本での最大の顧客ユーザーはこういった企業でしょうか？ その企業ではVCONのソリューションをどのように活用しているのでしょうか？

ダニエル氏: VCONの主な販売代理店は、日本システムウエア株式会社 (NSW) ですが、VCONのソリューションを過去3年ほど手がけており、地方自治体や民間企業などに実績があります。

日本システムウエアは、VCONのパーソナルテレビ会議端末やVDKと呼ばれる開発キットなどを組み合わせ、顧客のニーズに基づきインターフェイスのカスタマイズなどを行っています。

橋本: 今後日本での支店営業拠点を設置する予定はあるのでしょうか？

ダニエル氏: VCONの世界戦略は、日本も当然含まれますが、ビジネス展開をその国、地域毎にローカライズさせることに基本的な考えがあります。VCONは、近い将来市場が許す状況が来れば、日本に支店営業拠点を設置する前向きな考えは現在あります。

現状では、現在の日本国内の販売パートナーのパフォーマンスに十分満足していますので、実現はもうちょっと先になるかもしれません。

橋本:最近の SARS やイラク戦争によってテレビ会議の利用は増加したと思われますか？ビジネストラベルなどが制限されているようですが。

ダニエル氏:イラク戦争は直接テレビ会議ビジネスには影響は与えていませんが、SARS について言えることは、SARS にもっとも影響を受けた国々、たとえば中国、シンガポール、台湾などではテレビ会議に対する市場の関心が高まったようです。これにより、こういった地域では販売代理店の拡大や、顧客に対するソリューションの供給が増加しました。



橋本:アジア太平洋地区特に日本での今後の御社のビジネスプランを教えてください。

ダニエル氏:アジア太平洋地区は、テレビ会議業界にとって非常におおきな期待が寄せられている地域でもありますので、今後も弊社として同地区におけるマーケットシェアの拡大を図るため、積極的な投資を行っていく所存です。

私どものテレビ会議の販売について日本は、アメリカに続き非常に重要な市場です。この見方は今後も変わらないと見ています。従って、今後も継続して日本のお客様のニーズやご要望にあう製品を提供するために、製品開発などにリソースを傾注していく所存です。

私どもが提供しておりますテレビ会議製品やソリューションは、先進的な考え方を持っている日本のお客様に非常に合っていると確信します。そのような先進的な日本のお客様が、私どもの先進的なテレビ会議製品やソリューションの良さをご理解していただき導入をご検討していただくと期待しております。

橋本:最後に CNA リポートの読者に一言メッセージを。

ダニエル氏:今の私達は、どこかとコミュニケーションを取る場合、どのツールを使えばいいのかということをいちいち考えるということとはしたがないのではないのでしょうか。つまり考えなくても、ワンクリックで PC が操作できるように、簡単さをこういったコミュニケーションのツールに求めているのではないのでしょうか。

加えて、私達が、あるコミュニケーションを行う際に、ひとつの方法、ツールを使った時、そのツールに別のツールを加えたり、その別のツールに変えたりといったことを、簡単にかつシームレスに行える環境を望みます。つまり、それは、インスタントメッセージングというコミュニケーションの形態が起点としてコミュニケーションが始まる場合もあるでしょうし、また、音声からの場合や、コラボレーションの場合もあり得るでしょう。そしてそこから別のコミュニケーションの形態、たとえば、テレビ会議や音声会議やデータ会議へということもあり得ます。そういったコミュニケーションの取り方をシームレスにかつ簡単に思った時に行えるということがポイントになると考えます。

VCON はこのようなコミュニケーション環境、“リッチメディア・コンファレンシング & コラボレーション環境”を、弊社のソリューションを活用し提供します。つまり、この考え方の基本には、VCON の技術を活用し、お客様のニーズに基づく、その時々コミュニケーションを最適化するアプリケーションを提供するという考え方——先進的コミュニケーション環境——があるのです。

このような VCON の考え方に基づき開発された、音声、ビデオ、データの統合されたコミュニケーションソリューションは、お客様のビジネス達成にお役に立つでしょうし、またライフスタイルをリッチにするものであると確信しております。

VCON Ltd.連絡先

Ms. Michal Yogev MichalY@vcon.co.il

Marcom Manager and Sales Contact

(終わり)

イベント情報

国内

■IP テレビ会議最新技術動向と利用事例勉強会

「テレビ会議、音声会議、ウェブ会議に関する、技術及び市場動向、事例紹介などの最新情報」

TeleSpanVTV ジャパンセミナー2003

日 時: 2003年7月2日(水)(受付開始 09:00)
 会 場: 青山 TEPIA (TEPIAホール/展示ホール C)
 主 催: 米 TeleSpan Publishing Corp. VTV ジャパン株式会社
 * テレビ会議・電話会議・ウェブ会議(13社出展)に特化したセミナーセッションと展示(展示のみの参加あり)
 詳細: <http://www.hkeis.jp/tvj/>

■「多地点音声会議システム(audioVIRTUOSO)」 実践テクニカルセミナー

日 時: 2003年7月8日(水)13:30~17:00
 (受付開始 13:00より)
 会 場: 神保町三井ビルディング11階
 NTT-ME プレゼンテーションルーム
 主 催: NTT-ME、米コンピュネティクス
mmcs@ntt-me.co.jp
 * 多地点音声会議システム(audioVIRTUOSO)の紹介。
 詳細:
<http://nttiivs.ntt-me.co.jp/what/news2003/virtuososeminar07.html>

NASDAQ 株価 コンファレンス株

コンファレンス関連企業 6月19日値動き(米現地時間)

企業名	終値	純変動額	前日比	出来高
ACT	1.50	▲ 0.02	▲ 1.25%	13,090
クリアワン	2.80	▲ 0.10	▲ 3.11%	48,000
セントラ	2.841	▲ 0.08	▲ 2.71%	13,201
エゼニア	0.72	0.03	4.35%	257,939
フォーゼント	2.9	0.21	7.81%	341,233
FVC	0.94	▲ 0.06	▲ 5.91%	100,900
ゼネシス	2.5	▲ 0.13	▲ 4.94%	25,100
ポリコム	13.19	▲ 0.32	▲ 2.37%	918,027
レインダンス	2.51	▲ 0.08	▲ 3.09%	189,500
ラドビジョン	6.89	0.08	1.17%	116,600
ウェバックス	14.51	▲ 0.55	▲ 3.65%	513,810
ワイヤーワン	2.69	0.15	5.91%	86,292

後書き&次回発行予定について

「IP テレビ会議最新技術動向と利用事例勉強会」が来月7月2日に青山TEPIAで開催されますが、その準備のため次回予定の6月30日は休刊します。次は7月15日号を予定しております。

私は表にはでてきませんが、当日は裏方として走り回っていると思います。後1週間ほどなのでやっとここまで来たかという感じです。セミナーが終わったから家族で温泉にでも行って2、3日何も考えずに休もうかと考えています。

来月は、音声&ウェブ会議サーバーソリューションを提供する米 Latitude Communications 社 CEO、Rick McConnell 氏のインタビュー、7月2日のセミナー報告などを予定しております。

CNA Report 編集長 橋本 啓介 kay@hkeis.jp
<http://www.hkeis.jp>

(CNA Report Vol 5. No.11 2003年6月15日号終わり)
 次回は、2003年7月15日を予定しております。
 ご購読ありがとうございます。

CNA Report

Conferencing News & Analysis

Independent & Unbiased Perspective
 Since December, 1999
 By Keisuke Hashimoto